



週報

Rotary
OITA JOSAI, 2720



会長：村上智貴
幹事：伊藤秀海

国際ロータリー会長
ジェニファー・ジョーンズ
第2720地区ガバナー
堀川 貴史
大分第4Gガバナー補佐
藤田 千克由



IMAGINE
ROTARY

地区スローガン
ロータリーはつながりで溢れている
～友情いっぱい仲間となにかよいことをしましょう～

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン「ロータリーを日常に」

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

2022-2023 第36回例会
3月29日 No.1516

水と衛生月間

◆ 本日のプログラム

12:30 点 鐘

ロータリーソング「手に手つないで」

ゲスト・ビジターの紹介 村上 智貴 会長

会長の時間 村上 智貴 会長

出席報告及び幹事報告 伊藤 秀海 幹事

ロータリー情報 R情報担当委員

委員会報告 各 委 員 会

スマイルボックス 親 睦 担 当

13:00 地区補助金活動最終準備

◆ 今週のお祝い

● 創立記念日

芳崎一郎会員 (有)ホウザキ 4月1日(56年)

伊東真知子会員 (医)伊東クリニック 4月1日(33年)

中村智美会員 atelier bisess 4月1日(33年)

吉岡尚美会員 リラクセーション桜 4月1日(12年)

寺崎直史会員 寺崎法律事務所 4月3日(6年)

◆ 幹事報告

● 本日4月の出欠回覧をしております。

4/5(水)と4/26(水)は通常の昼例会、4/9(日)は地区補助金プロジェクト「おおいたアニマルミーティング」の本番、4/12(水)は9日の振り替えで例会取りやめ、4/19(水)は大分城西RC創立33周年記念例会で夜例会の為18:30点鐘となっております。

◆ ゲスト・ビジターの紹介 (3月22日)

● ゲスト

国際奉仕部門 部門長 小野 健介 様 (臼杵RC)

◆ 今後の例会予定

● 4月 5日(水) 地区補助金活動最終準備②

● 4月 9日(日) 地区補助金プロジェクト

「おおいたアニマルミーティング」

● 4月12日(水) 例会取りやめ (4/9の振り替え)

● 4月19日(水) 創立33周年記念例会 (18:30点鐘)

● 4月26日(水) ゲスト卓話 姫野 由香 様
(大分大学理工学部創生工学科建築学
コース准教授)

● 職業奉仕スピーチ

(4/26)眞上 (5/17)芳崎

◆ 会長の時間 (3月22日)

会長 村上 智貴

昨日は春分の日で、お彼岸のお中日でした。科学的な暦を祝日に行っているのは世界的には珍しいそうです。お休みだったおかげで、朝からたっぷり野球観戦できてよかったです。「暑さ寒さも彼岸まで」とはよくいったもので、異常気象だ温暖化だとは言われながらも、この時期が冬物をしましう目安です。

お彼岸の僕の楽しみは、ぼた餅とおはぎです。このおなじようなものに二つ名前があるので、その違いについて整理してみます。春に咲く牡丹の花のように大きく平べったいのがぼた餅で、秋に咲く萩の花のようにこじんまり俵形の形のものがおはぎとされています。小豆は秋に収穫されて皮が柔らかいので粒あんに出来るおはぎと、春には皮が硬くなっているのこし餡にするぼた餅。中のお米も、ぼた餅はもち米でおはぎはうるち米というのが一般的です。

本日は国際奉仕の出前セミナーですが、国際交流において常に問題となってくるのが言葉の壁です。英語の勉強をしないと世界に通用しないとと言われて私の世代は育ってきました。しかし、これを補ってくれると期待しているのが翻訳アプリです。この数年で日本語の音声認識もしっかりしてきましたし、短い文章であれば翻訳の正確さも上がりました。翻訳した言葉を中国語やフランス語にしてもスマホから音声として出せます。そうなると言語は道具・手段でしかなくなるので、何を語れるかが大切になってきます。日本と相手の国の文化や風習の違いをしっかりと確認しておく下準備が必要ということです。野球の試合後にグラウンドに整列して帽子を取って礼をするのも世界標準ではないらしいですけども、日本の野球ではいつもみている光景です。

このことを考えていて思い至ったのですが「文化が違うのは当たり前」「常識が違う」という発想は、自国の他人にも当てはめれば優しくなれるのではないのでしょうか。他人と発想が違うことを前提で向かい合う、多様性という言葉に集約されたロータリーの中核的価値観は素晴らしいと思います。

赤い色が邪気を払うとされ小豆が使われるのですが、その赤い色素がアントシアニンではなくカテキノピラノシアニンという物質だとわかったのがたったの4年前です。小豆の生産量は日本で年間5万トンほどで9割以上が北海道産。輸入は2万トンでカナダと中国が半々だそうです。漢字圏以外では小豆の甘いあんこは普及してないみたいなので、海外で寿司・天ぷらのお店を出すように、あんこを中心とした和菓子のお店を出すと流行るかもしれません。お彼岸という表現は仏教由来ですし世界一の小豆消費国である日本から、お彼岸のぼた餅文化を紹介できるようにになれば、国際交流に一つお役に立てられるかもしれません。

出席報告	3月22日					3月15日				編集担当	3月	園田 哲史
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	会員総数	出席率	補填数	修正出席率		4月	工藤 隆
	34名	23名	69.70%	1名	0名	34名	81.82%	1名	84.85%		5月	佐藤 憲幸

例会日 毎週水曜日 12:30～13:30 事務局 〒870-0021 大分市内府内町トキハ会館4階 Eメール oitajosairc@mist.ocn.ne.jp
例会場 ホテル日航大分 オアシスタワー TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 ホームページ http://oitajosairotaryclub.jp

職業奉仕スピーチ

佐藤 恵幸 会員

「保険を使ってインフレに負けない企業の財務強化」についてお話いただきました。

スマイルボックス

☺地区国際奉仕部門長 小野 健介 会員（1口）

大分城西クラブの皆様、この度は国際奉仕部門の出前セミナーをご注文頂き、誠にありがとうございます!! 貴クラブの今取り組まれているグローバル補助金事業を少しでもお手伝い出来ればと思います。何卒宜しくお願い致します。

☺芳崎 一郎 会員（5口）

小野部門長、本日の出前セミナー、ありがとうございます。国際奉仕部門長として長きにわたり地区内で活躍され、ご指導をいただきました。今年度で部門長を退任されますが、これからも変わらぬご指導をお願いします。本日も小野さんらしく笑顔いっぱいでお話を楽しみにしています。また、いつでも我が城西ロータリークラブに遊びに来てください。本日はお忙しい中ありがとうございます。又、WBCにて日本が世界一になりました事を祝して5口申告いたします。

☺奈須 敬司 会員（1口）

小野さん、ようこそ! 今日もジャケットきまっていますね。最高です!

2022～2023年度 国際奉仕部門 出前セミナー

『さあ国際奉仕をはじめよう』

地区国際奉仕部門長 小野 健介

部門テーマ『繋(つな)ごう! 国際奉仕の絆』

●2022～2023年度 事業計画

- 1 従来のセミナーは行わずに、国際奉仕に意欲を示すクラブに赴き、その例会の中で出前セミナーを実践し、磨きをかけながら国際奉仕への理解を深めて行くこと。
- 2 コロナ禍3年目の現状の中での国際奉仕の実情のアンケートを実施する。
- 3 ロータリー財団部門、米山奨学部門とタイアップしてグローバル補助金事業や米山学友等との関わり合いを通じて、より豊かな国際交流をバックアップして行くこと。
- 4 地区内で国際交流を希望し、実践するクラブを増やして行くこと。
- 5 常に「より良い国際奉仕のあり方」を模索し何か形づくって行くこと。

●堀川ガバナーの希望

クラブと地区が国際的なプロジェクトや質の高い大規模なグローバル補助金を立案する上で援助できる人材（専門的な知識を持つ地元ロータリアンやロータリー学友など）を紹介し、地区内クラブを海外の協クラブと引き合わせたり、プロジェクトや補助金の計画について助言できる地元専門家のネットワークを築いて欲しい。

●グローバル補助金の事業を実施する前に

海外との共同プロジェクト事業を進めるにあたり重要となる3つのポイント

1 知る

こちらから探すのではなく、既に支援を求めている海外の地区やクラブがあることを知る。

2 見つける

実施国（海外）の地区やクラブから、具体的な事業の

提案があるので、それを見つける。

3 信頼性（大きなバックボーンとなる）

双方のガバナーや奉仕リーダーが、既につながりを持ち、信頼関係の実績があること。

※相手を見つけるには3のポイント以外では

RIのウェブサイト「ロータリーショーケース」が活用できます。

https://map.rotary.org/ja/project/pages/project_showcase.aspx

グローバル補助金における重点分野

●グローバル補助金は、以下の用途以外には使用できない。

- ・平和と紛争予防／解決
- ・疾病の予防と治療
- ・水と衛生
- ・母子の健康
- ・経済と地域社会の発展
- ・基本的教育と識字率向上
(2020年より新たに)
- ・環境の保全

グローバル補助金の概要

要件

- * 海外における大規模で成果の継続性のある活動
 - * 3万米ドル以上のプロジェクト（上限は40万米ドル）
 - * 7重点分野に関わる活動
 - * ニーズを特定する（現地調査の実施）
 - * ロータリーのある国や地域（例外：ベトナム）
 - * クラブから直接財団に申請（但し、DDFは地区に申請）
- 申請スケジュール 随時（ただし、DDFは予算に到達するまで）
- 補助金額 現金寄付の50%、DDFの100%をマッチング

〈ウクライナへのロータリーの対応〉

ロータリー財団は2022年7月末までに1,500万ドル以上の寄付を集め、日本からは約334万ドル（DDF〈地区財団活動資金〉寄贈含む）もの寄付がありました。

それによりウクライナの人びとに水、食料、シェルター、医薬品、衣料等の生活必需品を提供するための支援を行っています。ちなみに当地区に戦火を逃れて来られたウクライナの避難民は、熊本県が2人大分県が27名との事で両県の行政機関が支援を行っていますが、これがいつまで続くかは未定との事で、援助金もいつまで実施するかわからない状況であるようです。そんな中で、熊本東南ロータリークラブがされた事業が、ロータリーの友7月号に掲載されておりました。

2720地区国際奉仕部門として、ロータリーらしい支援について考えた場合、何をすべきかという事について考えると金銭、物資の支援よりも「人と人とのコミュニケーション」といった精神的支援に焦点をあてていった方が良いと考え、ウクライナから避難民の方々も含めて、コロナ禍等で母国に帰れない状況にある外国人の方々同志の交流なども考えられるのでは、と思っております。しかし、これらは単年で出来るものではなく中長期的に捉えていく必要がありますので部門内でもっと精査してゆきたいと思っております。

また、2月に勃発したトルコ・シリア地震への支援もロータリーとして実施し、金銭的・物質的援助以外にも様々な支援のツールを見出し、可能な限り実施してゆきたいと思っております。